

保小連携ニュース

保小連携プログラム策定事業 スタート！

保育所等から小学校へのスムーズな接続を図ることは、発達支援等の必要な子どもを含め子どもの発達と学びを促進するために大変重要とされています。舞鶴市では専門家によるアドバイスを受けながら、小学校の生活科(地域や自然を題材とした理科・社会の複合科目)の内容を基本とした連携カリキュラムを策定・実践する事業をスタートしました。その概要を随時お知らせします。

アドバイザー：鳴門教育大学 大学院 木下 光二 教授 プロフィール

H18～鳴門教育大学附属幼稚園 教頭・教諭(5歳児クラス担任)H20～鳴門教育大学 准教授、
H23～鳴門教育大学 大学院 教授

【主な活動】

文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議」委員 など

【主な著書】「育ちと学びをつなげる幼小連携」(チャイルド本社)など



アドバイザーの木下教授

八雲保育園・由良川小学校で公開授業

木下教授をアドバイザーに迎え、八雲保育園・由良川小学校による第1回(11月11日)・第2回(11月24日)保小連携プログラム(公開授業)を実施しました。

八雲保育園と由良川小学校は、「つながり活動」として、積極的に交流を深めており、年長児と一年生が自然な関わりを持つことで、互いに様々な学びを経験しています。

今回の公開授業では、カリキュラムの作成により、子ども同士の交流だけでなく職員間においても密接な連携を図ることができ、保育と教育がお互いを知り、たくさんの「気付き」に出会うきっかけとなりました。公開授業の概要は以下のとおりです。

第1回 公開授業(11月11日、由良川小学校)の概要

(1)保小連携カリキュラム

①単元名

「はながうたうよ るんららん」～またそだてたいな～

②単元のねらい

- ・校庭や身近な自然の様子に関心を持ち、進んで秋探しをするとともに、秋の素材を使った遊びに取り組もうとすることができる。
- ・木の葉や木の実などを使った遊びに関心を持ち、それらを使って友達と一緒に遊びを工夫することができる。
- ・校庭や身近な自然の中での遊びや生き物の様子、人々の服装、通学路の様子などから、季節が秋に変化してきたことに気付くことができる。

③指導計画

「八雲保育園・由良川小学校つながり活動プラン」

④本時の目標

(1年生)

- ・春の開花への期待感を持って、きょうだい班で助け合いながらチューリップの球根を植えることができる。
- ・チューリップの球根の植え方を年長児に分かりやすく伝えることができる。

(年長児)

- ・きょうだいの1年生に助けてもらいながら、チューリップの球根を植えることができる。
- ・春の開花を期待すると共に、入学への期待を膨らませる。

(2)木下教授の講評

- ・学校と保育園が関わりを始めたときに、『違い』を感じたことが大切です。『違い』が分からなければ、溝は埋められません。
- ・保育園の先生の表現の豊かさが、学校の先生にもいい影響を与えています。
- ・表現や言語は、国語の時間ではなく、生活科の時間でこそ伸びていくものです。
- ・子どもにも先生にも『育ち』が見られる、素敵な連携が行われていますね。全国の研修会等で紹介していきたい内容です。

(3)参加者の声

- ・行程をホワイトボードに張って示すなど、見通しを持たせる工夫が随所に見られた。
- ・先生方の動きや子どもへの援助から、職員間同士の連携・事前の打ち合わせがしっかりと行われているのを感じた。
- ・連携の積み重ねが、園児の就学への不安を軽減するのだと感じた。
- ・木下教授の「教えるのではなく、伝えるという姿勢が大切」という言葉は、日頃の子どもへの関わり方の参考になった。



由良川小学校 佐藤先生より、これまでの『つながり活動』の紹介



つながりテーマソング



迫田先生と山田先生による導入の様子



1年生が土の中の様子を劇で紹介



きょうだい班ごとに球根を植えました

第2回 公開授業(11月24日、八雲保育園)**(1) 保小連携カリキュラム****① 単元名**

11月24日(木) 「くさも わたしも ころもがえ」～こんなにあったよ みんなのあき～

② 単元のねらい

・秋になった自然の中を散歩したり、楽しく遊んだりしながら、季節の変化に気づくことができるようにする。
 ・秋の様子について、いろいろな方法で表現したり、秋の素材を利用して遊ぶものを作ったりしながら、人々との交流に参加して、みんなで協力しより良い人間関係をつくることができるようにする。

③ 指導計画

「八雲保育園・由良川小学校つながり活動プラン」

④ 本時の目標

(1年生)

・描いたり、切ったり、貼ったりして「あそびのひろば」の準備ができる。
 ・きょうだいで助け合いながら、自分のできることを精一杯しようとする。

(年長児)

・描いたり、切ったり、貼ったりしながら、自分のできそうな事をみつけてやってみる。
 ・「あそびのひろば」を楽しみにしながら、準備を手伝う。

(2) 木下教授の講評

・職員間の「保育感」が共有できている。
 ・前回と比べ、山田先生と迫田先生の距離感が非常に近くなっている。
 ・導入が命です！子ども達の「一緒にやりたい」という気持ちを導き「作りたい」という気持ちを引き出すことが大切です。

(3) 参加者の声

・子ども達に期待感を持たせ、「やりたい」気持ちを引き出せる導入が行われていた。
 ・自然に小学生が年長児を誘ったり、年長児は小学生を頼りにしたり、よい関係が印象に残った。
 ・時間配分等、計画通りにまとめられ、略案作成時から十分な打合せが行われたことを感じた。改めて「打合せ、計画、検討、連携」の重要性を学んだ。
 ・2人の先生の良さがうまく活かされていた。「学校と保育園の両者で作ったんだな」と感じられる内容だった。



「おまつりひろば」の看板発表
 子どもたちの期待感が高まります！



1年生によるお店の説明



子どもだけでなく、先生同士もつながります！



反省会の様子



市教委から池田先生にも参加していただきました。



最後はみんなで「つながりの歌」！

※上記の写真は全て11/24(於:八雲保育園)

明倫小学校で保幼小連携を実施

11月29日、明倫小学校の呼びかけにより、地域の保育園・幼稚園(ルンビニ保育園、相愛保育園、みつる幼稚園、舞鶴幼稚園)の年長児が集まり、保幼小の交流が行われました。

小学校が中心となって実施されたため、複数の保育園・幼稚園が参加し、活気あふれる連携が行われました。就学を控えた年長児にとっては、小学生だけでなく、他園の年長児とも交流する機会となり、大きな刺激を受けることができました。

この取組は、小学校区に複数の就学前施設のある学校での保小連携の手法として、モデル的な事例であるといえます。

今後の予定

次回の保小連携プログラム公開授業は、岡田保育園(平成24年2月6日)で実施します。

もちろん、次回も木下教授をアドバイザーに迎えて実施します。

詳しくは子ども育成課(北川・西)まで。



1年生のお兄さん・お姉さんが、
 2年生のお店を案内してくれました。

感想やご意見をお気軽にお寄せください。

舞鶴市子ども育成課

Tel (0773-66-1009)

Fax (0773-62-7957)

mail (k-ikusei@post.city.maizuru.kyoto.jp)